

令和6年度
劇場・音楽堂等機能強化推進事業
(地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業)
成果報告書

団体名	富士山河口湖音楽祭実行委員会	
施設名	河口湖ステラシアター	
内定額	6,695	(千円)

1. 基礎データ

(1) 開館日数・事業本数・貸館日数

項 目		令和5年度	令和6年度
開館日数		307	307
年間事業本数（※1）	主催事業	68	69
	公演事業	3	3
	（内、本助成対象事業本数）	0	0
	人材養成事業	61	63
	（内、本助成対象事業本数）	0	30
	普及啓発事業	4	3
	（内、本助成対象事業本数）	4	1
	その他 内容： 記入してください	0	0
	ホールごとの貸館日数	150	208
	ホール名： 河口湖ステラシアター（大ホール） 座席数： 2991席	60	48
貸館日数	ホール名： 河口湖ステラシアター（小ホール） 座席数： 240席	10	52
	ホール名： 河口湖円形ホール 座席数： 100席	80	108
	ホール名： 記入してください 座席数： 記入してください		
	ホール名： 記入してください 座席数： 記入してください		
	ホール名： 記入してください 座席数： 記入してください		

※1 事業の延べ実施回数ではなく、事業本数を記入してください。

(2) 施設利用者数・利用率

項 目		令和5年度	令和6年度
施設利用者数（※2）	主催事業入場者・参加者数	20,883	39,055
	公演事業	19,627	30,873
	人材養成事業	406	1,816
	普及啓発事業	850	6,366
	その他 内容： 記入してください	0	0
	貸館事業入場者・参加者数	23,000	35,205
	その他 内容： 記入してください	0	0
	計	43,883	74,260
	施設の利用率(%)	20.0%	15.6%

※2 実演芸術の公演等を鑑賞する者、ワークショップ等に参加する者、その他の劇場・音楽堂等の事業を利用する者の延べ人数を記入してください。劇場・音楽堂等のスタッフや、併設施設（美術館、図書館等）のみへの入場者数は除きます。

(3) 公演事業データ

事業種別		事業本数	公演回数	入場者・参加者数	入場者・参加者率	事業本数内訳						
						演劇	音楽	舞踊	伝統芸能	演芸	総合（※4）	その他
令和5年度	主催公演（※1）	9	24	20,880	41.1%		6				2	1
	共催・提携公演（※2）	6	8	5,300	38.7%		4					2
	貸館公演（※3）	14	17	23,000	60.0%		11				1	2
	計	29	49	49,180								
令和6年度	主催公演（※1）	9	20	20,610	35.0%		6				2	1
	共催・提携公演（※2）	6	5	7,533	32.0%		4					2
	貸館公演（※3）	29	28	34,078	45.0%		15					14
	計	44	53	62,221								

※1 名義主催は除きます。
※2 名義共催を含みます。
※3 「貸館公演」における「入場者・参加者数」及び「入場者・参加者率」は概算で構いません。
※4 「総合」には、フェスティバル等における事業数を記入してください。

2. 公演事業の実績記録と自己評価

(1) 各公演事業における 評価項目「創造性・企画性」に関する評価指標・目標(値)

- 令和6年度助成対象事業のうち公演事業について、助成対象事業ごとに自己評価を記入してください。

事業 番号	事業名	入場者数		入場者率	評価指標	目標(値)	実績(値)	団体の自己評価	所見	備考
		目標 値								
		実績 値								
		目標 値								
		実績 値								
		目標 値								
		実績 値								
		目標 値								
		実績 値								
		目標 値								
		実績 値								
		目標 値								
		実績 値								
		目標 値								
		実績 値								
		目標 値								
		実績 値								
		目標 値								
		実績 値								
		目標 値								
		実績 値								
		目標 値								
		実績 値								

3. 自己評価

評価項目①：創造性・企画性

評価の観点
・(企画力)地域の状況と芸術性とのバランスが取れた、特色ある事業計画である。 ・(制作力)優れたアーティストやスタッフ等が才能や技能を発揮し、高い水準の作品制作や各種事業が行われている。 ・(発信力・影響力)圏域内外の実演芸術を牽引する成果が期待できる。 ・(レジデントカンパニー・アーティスト)当該劇場を創造拠点又は準拠点とする実演芸術団体やアーティストを擁する。 ・自由設定の観点(任意)

(1) 令和6年度の自己評価

- 評価補助シートで設定した評価指標と目標(値)、及び、その達成度に言及しながら、事業類型ごとに自己評価を記入してください。

	評価指標	目標(値)	実績(値)	団体の自己評価	所見	対応・追加情報など
公演事業						
人材養成事業	1.演奏家による音楽アカデミーへの応募者数 2.一般公募事業の参加者数増加 3.公募事業参加者の実施後の反応	1.演奏家による指導を伴った特別編成教育プログラム数…4プロジェクト 2.中学生バンド参加者数…70名/中学生OBバンド編成…名/特別合唱団…50名 3.各学校・合唱団指導者へのリサーチで概ね好評価を得る	1.中学生バンド等編成2、打楽器マスタークラス1、合唱団編成1、合計4 2.中学生特別バンド参加実績数72人/中学生OBバンド参加実績数人/特別合唱団参加実績数55人 3.各学校の児童生徒、指導者から概ね好評価を得る。	富士山河口湖音楽祭は住民の皆さんと共に作り上げる住民参加型創造音楽祭として取り組んでいることを特徴としている。その中で、オリジナルプログラムとして、海外演奏家と直接かかわりながらホール企画制作による事業ができることを最大限に活かし、住民ボランティア、学校各先生とも連携しながら、子供たちに生の本物に触れる機会を作っている。世界で活躍する演奏家による演奏を身近に感じる機会となり、本物に触れる機会を養う機会になっている。併せて、演奏家との交流から外国語にも触れる機会にもなっており、将来のホール運営にもつながる機会になる重要なプログラムとしている。 毎年この人材養成活動の一つにある演奏家による音楽アカデミーのプロジェクトでは演奏家との共演を一つのプログラムとしている。この共演に向け、子どもたちは本番までに、合奏の成功を想像しながら日々練習を重ねている。本番では、演奏家が音楽で子どもたちを先導し、曲が完成していく様子は鳥肌が立つような感動的な瞬間である。一生懸命なその演奏は、その場でしか味わえない忘れられない経験となり、元気づけられ明日への活力となることだと実感している。 また、毎年参加募集をしている特別合唱団プログラムではプレ演奏会、本番に出演の為、合唱指導の下合唱練習に参加してもらう。こうしたプログラムで県内、地区内の合唱団の交流の場にもつながり、結果参加者にとっても満足のゆくプログラムになると実感している。 富士山河口湖音楽祭のプログラムを通じて、地域のみならず、全国に音楽の大切さ、文化プログラムを開催できたことの意義を共有できたことと思われ、こうした動きが令和6年度の富士山河口湖音楽祭の開催につながったと考える。		
普及啓発事業	1.円形ホール公演(100名収容小規模ホール)の公演数 2.観客・関係者へのアンケートおよび評価	1.円形ホール公演5公演以上 2.「とても良かった」「良かった」との回答80%以上	1.音楽祭円形ホール公演数7公演 2回答80%以上が満足 of のいくつか	音楽を身近にもっと楽しく！をスローガンに、2002年から開催している富士山河口湖音楽祭は、開設当初からホール以外でのアウトリーチ事業や教育プログラムを重要事業としてプログラムを構築している。その中でホール独自プログラムとして、海外演奏家と直接かかわりながらホール企画制作による事業ができることを最大限に活かし、住民ボランティア、学校各先生とも連携しながら、子供たちに生の本物に触れる機会を作っている。世界で活躍する演奏家による演奏を身近に感じる機会となり、本物に触れる機会を養う機会になっている。併せて、演奏家との交流から外国語にも触れる機会にもなっており、将来のホール運営にもつながる機会になる重要なプログラムとしている。 毎年この機会を通じて、子供たちにとって音楽を身近に感じる環境を作っていく。ただ、町内の学校すべての会場で演奏会を実施することは難しく、音楽に触れる機会が得られない学校もある。平等に機会を共有する観点から、円形ホールでの演奏会を学校観劇教室の一環としても位置付け、児童生徒を招待している。より多くの地元住民である皆さんに音楽を純粋に楽しんでもらう目的と、もう一つに、子どもと同じ空間・同じ音楽を聴くことで、自宅での共通の話題の一つになることをねらいとしている。一つのことを皆で楽しみ、話をする時間が必要であり、そこから生まれる温かい会話で、小さなことではあるが、殺伐とした日々から少しでも心が救われ、活力になっている。 富士山河口湖音楽祭のプログラムを通じて、地域のみならず、全国に音楽の大切さ、文化プログラムを開催できたことの意義を共有できたことと思われ、こうした動きが令和6年度の富士山河口湖音楽祭の開催につながったと考える。		

(2) 「創造性・企画性」が向上したことを示すエピソードやグッドプラクティス事例を記入してください。

ホールが直接招聘する演奏家に対する住民の参加の仕組みを作る形で、町の直営のメリットを最大限に活かし、富士河口湖町オーストリア音楽国際交流委員会をホール内に設置し、住民と共に運営と展開を図っている。6人の委員が能動的に出演者と向き合い、食事の手配や準備、また、譜面台など備品の準備を行うなどできることを住民の皆さんにも枠組みを作る。そのことで演奏家も心広がる場面も多く、また広がり、住民参加型音楽祭として機能の強化、そして住民のホールの関りがより一層深まる機会となった。また、学校公演では、子供たちが終演後名残惜しうに演奏家に握手を求め、それに呼応する演奏家との微笑ましいやりとりが生まれ、普段の学校活動とは違う学習環境を与え、そして、まなびの深まりを感じる場面が多くあった。また、老人福祉施設では、微笑む入所者が多く、普段は喋らない入所者も明るく元気になり、中には車いすで握手をねだる入所者もあり、普段の施設生活に潤いと喜びを与える機会となった。こうした一連の様子や演奏家自ら演奏した楽曲が人々の感動を深く作ることも演奏家自身も深く感じさせる機会となった。 中学生バンド編成プロジェクトに参加された中学生は、演奏家の指導を受けることを通じて、コロナウイルス感染症の中で小学校時代を過ごし、表現する喜びを口にするメンバーも多く、若者に学校とは違う学びと喜びの場としての環境を作り、音楽をより一層楽しみ生涯の財産となるようプログラムになり、中学生の心作りに音楽プログラムが貢献することにつながった。中高校生の音楽を学ぶ生徒は、定期演奏会など学内活動はあるものの、学外活動まで広げて活動していくことは難しい面がある。そこに向き合う形で、更に演奏の技術やハーモニーを学び合うプロジェクトとして音楽祭吹奏楽中学生特別バンドを位置付けている。公募によって毎年約20校から70人前後の生徒が集まり、学校の枠組みを超えた交流が生まれる機会になり、学生生活に同じ趣味を持った交流関係の広がりが生まれる。また、他校吹奏楽部顧問が指導するなど、同世代や先生など様々な交流を通して人間性を育む機会にもなっている。令和6年は中学生バンドの参加者が増えるよう、中心となっている先生方からの告知強化依頼や、具体的な内容を早めに印刷物などにまとめ、参加経験者も交えて告知する機会を増やして参加者増に努めた結果約70名近くの生徒で演奏することができ、参加生徒からも満足のいく回答を得た。

評価項目②:国際性(任意)

評価の観点
・(国際プレゼンスの向上)海外の劇場やフェスティバル、実演芸術団体等と連携し、国際共同制作や海外作品の招聘等に取り組んでいる。 ・(国際交流)アーティストや文化芸術関係者の招聘等、人的交流や情報交換が行われている。 ・(新たな創客への取組)在住外国人や訪日外国人に向けて文化芸術体験の機会を提供する等、グローバルな視座で創客に取り組んでいる。 ・自由設定の観点(任意)

(1) 令和6年度の自己評価

- 評価補助シートで設定した評価指標と目標(値)、及び、その達成度に言及しながら自己評価を記入してください。

評価指標	目標(値)	実績(値)	団体の自己評価	所見	対応・追加情報など
1、演奏家の直接招へいするなど、音楽を通じた国際交流の場を作る。	1、海外からの直接招聘する演奏家の回数2、演奏会の回数3以上	・音楽祭ブレ企画(採用事業)において海外の演奏家を招聘1回、演奏会4(学校、高齢者施設委含む) ・対象事業外ではあるが、その他海外演奏者3組(7名)を招聘 ・円形ホールにおいてコンサート、町内学校でのアウトリーチ活動実施	音楽祭での海外演奏家の招聘は本来2組を予定していたが、演奏家の都合により1組の来日となってしまったが、円形ホールでの演奏会の実施、町内学校、福祉施設でのアウトリーチ活動を実施した。演奏会にはスタッフをはじめ、ボランティアの方々、実行委員会の方々など多くの地域住民とも接する機会となった。また、海外の演奏家の招聘にあたり、お客様が普段は味わうことができない国内とは異なる雰囲気演奏を聴くことで、国内の文化レベル向上のみならず、海外演奏者の人的交流や情報交換が行われる機会となった。 アウトリーチ活動では町内の学校に赴き生の演奏を届けることができた。これによって、子供たち感性を刺激することだけにとどまらず、家族でのひと時を過ごすときの話題として架け橋になっている。また、福祉施設では入居者からプレゼントを頂戴したり、交流をする機会となっており、演奏会に向かうことが困難な方も演奏を聴く機会になる。そのため、長期的な活動をする目的の一つとして地域の方に支えていただくことが不可欠であり、そのためのきっかけを作成するために海外からのアーティストを招聘することが国際性につながっている。		

(2) 「国際性」が向上したことを示すエピソードやグッドプラクティス事例を記入してください。

海外のアーティストでヴァイオリン奏者であるペーターヴェヒターさんの福祉施設のアウトリーチを行った際に写真やプレゼントなど人的交流が行われていた。当該事業とは異なる活動として海外アーティストの3組を招聘した際に、小学校のアウトリーチ活動に始まり、実行委員会とお食事や町内文化祭での演奏活動、ボランティアさんの慰労会への出席など多岐にわたって人的交流が広げられた。中でも、文化祭での演奏を終えた後、前日にアウトリーチ活動をした小学校の学生さんから有志で花束のプレゼントがあり感動的な交流が広げられていた。また、ホールが町内にあるショッピングセンター、レジャー施設、美術館などとも連携している中でミニ演奏会を実施している。県外から訪れる来場者も多く宿泊促進、音楽祭におけるミニ演奏会開催に伴う来場者の増加、また、周辺レストランなどホールに関わる周辺の施設が、音楽祭開催における大小合わせたプログラムが有機的に機能していくために、積極的にミニ演奏会をきっかけにホールと各施設の連携をしている。また、地元住民のみならず在住外国人や旅行外国人も音楽を更に身近に感じていただけるようショッピングセンター、公民館、病院など地域コミュニティの中核施設でもミニ演奏家を実施する。演奏家には、100名収容の河口湖円形ホールにて、室内楽を身近に感じるようリサリタル開催し、前後の日程でミニ演奏家を開催する。一連の企画を演奏家及び地域運営ボランティアの皆さんとも企画連携をしながら、音楽の普及プログラムを開催している。また、ホールの自主事業を強化も踏まえて、海外から演奏家を招へいしている。中でもウィーン・フィルハーモニー管弦楽団メンバーなど世界で活躍する演奏家との連携から、ホールが直接招へいすることによって、学校や老人福祉施設でのミニ演奏会も実現している。併せて住民の参加を促すため、すべてが受入れ実行委員会を作り、主体的に企画運営を住民も一緒に取り組んでいる。今後も地域の経済活性化にもつながり、地域内の教育的な役割、または、文化的なまちづくりを目指しホールが主導的な立場を担っている。

評価項目③:地域文化拠点機能

評価の観点
・(文化拠点)地域の特性やニーズを踏まえ、地域の文化資源を活用するなど、地域の文化拠点として事業が組み立てられている。 ・(地域連携)地域の関係機関と連携・協力し、地域コミュニティの創生や社会課題の解決等に取り組んでいる。 ・(児童生徒への機会提供)次代を担う子ども達を対象とした鑑賞や体験事業が行われている。 ・ホール利用サービス(貸館事業)の向上 ※ ・自由設定の観点… レストラン、ショッピングセンター、鉄道等ホール側連携にともなう貸館事業連携の観点

※ ホール利用サービス(貸館事業)を行っていない場合は不要

(1) 令和6年度の自己評価

- 評価補助シートで設定した評価指標と目標(値)、及び、その達成度に言及しながら自己評価を記入してください。

評価指標	目標(値)	実績(値)	団体の自己評定	所見	対応・追加情報など
1.学校公演を実施する町内小中学校数 2.子どもたちの音楽プロジェクトにかかわる支援体制 3.出張演奏を実施する高齢者施設の数 4.文化・若年層ボランティアの育成	1.小学校3か所、中学校1か所 2.35名以上 3.老人ホーム等2か所以上 4.音楽祭期間中の延べ参加者数100名以上	1.小学校1か所 ※対象事業以外では、10プログラム開催している。 2.35名 3.1か所 ※対象事業以外では、3か所 4、.260名	ホールの役割として、演奏家とのネットワークを活かして、一流演奏家等各演奏家の演奏会を気軽に楽しめる機会の充実を図るニーズがあると考えられる。併せて、地域住民に対して、住民が普段日常的に使っている各施設(病院、公民館、ショッピングセンター等)でも、良質な演奏会を開催し、音楽を身近に感じられる機会は住民の日々の生活に潤いを与え、特に病院や老人ホームなどでは高齢者に心とむ音楽を届け、音楽で心安らぐ雰囲気を作っていくことが必要とされている。令和6年度は町内小中学校、老人ホームへも出向くことができ私たちが掲げる以下目的が実現できたのではないかと考える。 ・ホールが音楽祭の枠組みを作り実施する良質な演奏会を住民が鑑賞する機会を作り、住民の心豊かな生活環境作りに貢献する。 ・子どもたちへ生の本物の音楽を届けることで、その瞬間でしか聴くことのできない音楽の、感動やすばらしさを体験してもらう。その演奏会により、子どもたちの豊かな心をつくる一つの経験に繋げる。 ・ホールが海外から直接演奏家を招聘し、子どもたちとの演奏や簡単な英語を使って国際交流環境の充実を図る。 ・演奏家と子どもたちとの共演(校歌や音楽の授業で扱った曲や練習曲など)を実施することで、音楽を通じて地域とふれあう交流活動となり、子どもたちと演奏家が一緒に音楽を楽しむ機会の充実を図る。 ・会場へ足を運ぶことが身体的に困難な高齢者に対して演奏家自らが赴き演奏会を開催することで、生の音楽に触れる機会を提供し、住民の心豊かな生活環境作りに貢献する。 引き続きこのような活動を大切にしながら、住民とともに考え・参加する「住民参加型創造音楽祭」として役割を持つべきだと考える。		

(2) 「地域文化拠点機能」が向上したことを示すエピソードやグッドプラクティス事例を記入してください。

若者に学校とは違う学びの場としての環境作り: 中高校生の音楽を学ぶ若者は、定期演奏会など学内活動はあるものの、学外活動まで広げて活動していくことは難しい面がある。地元音楽教諭も音楽祭実行委員会のメンバーになり、ホールと一緒に子供たちにとって意味ある活動が何であるか考え、音楽教育プログラムを企画した。音楽を学ぶ方、音楽に関わる方に対して演奏家自らが技術指導やレッスン指導を専門的に実施した。音楽公開レッスンやオーケストラのリハーサルも公開にし、オーケストラをまとめる様子をすべて公開するなど、学び合う場所をホールが構築する。この事業を実施することによって、音楽の魅力を広げると同時に、音楽普及や教育活動を行う上での下地になる環境づくりにつなげた。また、令和6年度は音楽祭開催23年目の柱、合唱プロジェクトの開催、2025年ステラシアター30周年を目指す取り組みとしてママさんコーラスや一般合唱団の枠組みで合唱活動を長く行ってきた。2004年音楽祭の枠組みで個人応募型合唱団を作り、練習から本番までの合唱プロジェクトの仕組みを作ってきたが、こうしたプロセスを踏まえて、2024年音楽祭23回目の年を迎え、音楽祭合唱プログラムは8月17日(土)シエナウインドオーケストラコンサートの出演やブレ演奏会にて合唱演奏会を開催した。合唱を通じて多くの方が合唱曲を楽しみあえる機会を作っていくと同時に、2025年ステラシアター30周年記念第九演奏会にもつなげていくよう、富士山の麓が合唱の魅力を広げることに貢献していく。

評価項目④:多様性とアクセシビリティ

評価の観点
・(プログラムの多様さ)プログラムの種類や形態が多様で、幅広い観客や参加者に訴求する。 ・(参画者の多様さ)アーティストやスタッフとして参画する人々の属性(性別、年代、居住地、他)が多様である。 ・(アクセシビリティ)障がいの有無や年齢、性差、国籍、居住地、経済的状況等に関わらず、あらゆる人々と実演芸術をつなぐため、施設の構造・設備上の配慮、プログラム上の創意工夫やサポート、アウトリーチ等が行われている。 ・自由設定の観点(任意)

(1) 令和6年度の自己評価

- 評価補助シートで設定した評価指標と目標(値)、及び、その達成度に言及しながら自己評価を記入してください。

評価指標	目標(値)	実績(値)	団体の自己評価	所見	対応・追加情報など
1.ミニ演奏会(アウトリーチ事業)の実施数 2.若手演奏家の演奏機会	1.20か所以上 2.5か所以上	1.23回(音楽祭のみ) 2.5か所	ホールの役割として、将来的な人材育成のためのプログラムを実施する。音楽祭には重要な役割を果たす、音楽家によるアカデミープログラム、合唱と吹奏楽の特別編成プロジェクト、また地元運営文化ボランティアと音楽大学アートマネージメントコースで学ぶ学生との文化ボランティア活性化事業を開催する。この人材育成のプログラムは、将来のホール運営事業を支える重要なテーマとなる。ホールのプログラムに関わってもらいながら、ホールと人との結びつき、及びホールを支える人を育てている。また、普及活動としてホールから外へ出て観光施設や美術館などを会場にミニ演奏会も開催することから、地元住民のみならず県内外から来場者があった。森の中のコンサートでは10年ほど前に植えた木々に実がなる木も出来てきており、事業の趣旨を説明し演奏会前に植樹作業を行った。中には10年前に同イベントに参加し、植樹をされた高齢夫婦も参加され、このイベントを通じて心をつなぐ機会になった。こうした思いが劇場につながる下地となっており、事業を実施するねらいでもあり、ホールの基盤にもなっている。 音楽祭は8月2週間ほど開催し、今年の演奏家による音楽普及演奏会プロジェクトは、大都市圏では収容能力の高い会場で行われる演奏家による最高質の演奏を、100名収容の河口湖円形ホールで演奏会を楽しむ機会を作ることができた。併せて、アウトリーチコンサートとして、どなたでもご鑑賞いただける美術館でのコンサート、老人福祉施設などで開催することができ、ふと訪れた会場で音楽を楽しむことにつながり、音楽を自ら楽しむ機会を作ることが難しい高齢者に生の本物の演奏を楽しむ機会を提供することができた。助成金をいただくことにより良質な音楽を身近に感じられる機会になり、こうした地道な活動ではあるが、地域におけるホール運営の理解につながり、オーケストラ演奏など大規模演奏会開催への住民理解へとつながる機会になった。		

(2) 「多様性とアクセシビリティ」が向上したことを示すエピソードやグッドプラクティス事例を記入してください。

ホール周辺の自然環境を活かして、演奏家と共に音楽を身近に触れる機会を作るためにホールの特性を新たに発見することを文化ボランティアの皆さんと創造しながら、プログラムを生み出していく中で、ホールの周りにある木々と行きかう鳥の鳴き声のすばらしさを活かし、ホールのプログラムに組み入れた。どんぐりの木をホールが育て、自然豊富な環境の中で、普段ゆとりなく過ごす幼少の子供を持つ家族に音楽を通じて、自然の魅力を感じる機会を作り、子供たちに音楽の魅力と自然の豊かさに触れる機会を作ることができた。 また、10年前にホール周辺に植樹したどんぐりや栗の木から木の実が取れ始めるほどの大きさに育ち、前年採取した木の実を使って、親子で自然の素材を活かした太鼓やマラカス作りをしながら、親子で楽器作り教室を開催し、演奏家との共演に使用した。このことを通じて、親子で触れ合う機会を作り、演奏家の音楽に身近に触れる機会を提供した。 各観光施設及び住民施設とホールが連携し、音楽を身近に感じる環境の充実を図るために各観光施設、レストランなど飲食施設と連携しながら、観光産業に貢献していくことがホールの役割の一つとしてあり、その取り組みを具体的につなぐ取り組みとして、観光施設などでアウトリーチ演奏会を行った。 また、病院、公民館、スーパーなど日常生活で住民が使用している場所で住民向けに演奏会をすることもホールの役割になっている。こうした音楽を身近に感じられる機会の充実化を図ることにより、町全体のブランド価値の向上につながり、住みやすいまち、魅力あるまちとして認知度も深まることと考えられ、産業の広がりの援助など各方面に良い影響が生み出される基になる。また、アウトリーチ活動の一環として町内の子供たちが演奏会を平等に楽しむ機会の提供、演奏会後に出演者と入所者の交流会を実施した。町内の学校すべての会場で演奏会を実施することは難しく、音楽に触れる機会が得られない学校もある。平等に機会を共有する観点から、円形ホールでの演奏会を学校観劇教室の一環としても位置付け、児童生徒を招待しているが、同時に演奏会には保護者一名も招待している。これには、より多くの地元住民である皆様へ音楽を純粋に楽しんでもらう目的と、もう一つに、子どもと同じ空間・同じ音楽を聴くことで、自宅での共通の話題の一つになることをねらいとしている。核家族化が加速している今だからこそ、一つのことを皆で楽しみ、話をする時間が必要であり、そこから生まれる温かい会話で、小さなことではあるが、殺伐とした日々から少しでも心が救われ、活力になると考えられる。さらに、演奏会後に、演奏家と施設の皆さんでお茶会を開く。毎年、演奏会のための飾りつけやプレゼントをご用意して下さるので、そのお話やお礼の演奏披露などをしている。写真を一緒に撮る場面もあり、お互いに刺激し合う時間にもなっている。町の通訳ボランティアの方にも同席していただき、通訳を介してお互いの音楽文化の話題などで盛り上がり、心分かち合う機会を作ることができた。

評価項目⑤: 自由設定(任意)

①創造性・企画性、②国際性、③地域文化拠点機能、④多様性とアクセシビリティ、⑥運営体制と持続可能性 の項目では成果や課題に言及しきれない事柄について、自己評価を行ってください。

評価の観点

- (1) 令和6年度の自己評価
- 評価補助シートで設定した評価指標と目標(値)、及び、その達成度に言及しながら自己評価を記入してください。

評価指標	目標(値)	実績(値)	団体の自己評価	所見	対応・追加情報など

評価項目⑥:運営体制と持続可能性

評価の観点		現状	目標(値)	実績(値)	団体の自己評価	所見	対応・追加情報など
「実現性」の評価項目より							
(ア)	(多様な財源の確保) 予算計画が妥当であり、事業収入のほか、各種助成金や寄附金・協賛金等の獲得に努めている。	町内各企業様よりご協賛をいただく	町内外5企業	ホールの年間活動として、町内企業3社、町外企業様4社	町内のみならず、町外の企業様からもご協賛頂いた。		
(イ)	(広報・営業力) 広報計画が充実しており、券売や集客、会員制度等の拡充に努めている。	フレンドリークラブ(ホール会員制度)加入数 現在300名程度	会員特典の見直し、新規会員獲得、年間会員300人以上	会員数549人	入会を促すために通知を郵送など告知を心掛け新規会員獲得につながった		
(ウ)	(他館連携) 他の劇場・音楽堂等との事業連携や協力・支援を通じて、効果的で効率的な事業運営を行っている。	様々なホールと連携し情報交換、チラシ配布など行う	連携ホール: 1以上	連携協力: 3か所	事業の情報交換、チラシ配布等行い必要な連携を行う		
(エ)	(設置者) 円滑な事業の継続のため設置者と適切に意思疎通を図っており、設置者による人材や財源の確保等が期待できる。	町直営施設のためホールとしての長期計画を立て実行する	音楽祭等プロジェクト数: 2以上	音楽祭等住民参加プロジェクト企画数: 3	今後も地域に還元できる施設として計画を実施することが必要と考え、施設を直営として、長期目標の基で実施している。		
「持続可能性に関するチェックシート」より							
(オ)	(芸術監督) 芸術監督等、劇場運営の芸術面を統括する人材が配置されている。	ホールに外部プロデューサー1人、音楽祭の枠枠組で宮川彬良さんに音楽祭演出ディレクター	ホール: ステラシアタープロデューサー1人、音楽祭: プログラミングディレクター1人	ホール: ステラシアタープロデューサー1人、音楽祭: プログラミングディレクター1人	より専門性を帯びた施設運営を図るよう体制を整えている。		
(カ)	(長期的経営) 長期的視点に立ち、劇場運営を統括する、経営実務者が配置されている。	企画制作スタッフ2人	企画制作スタッフ2人	企画制作スタッフ2人	音楽祭の枠組みを3プロジェクト確立し、ホールが住民も含めたプロジェクト体制を確立している。		
(キ)	(専門人材の確保) 今日的な劇場運営に必要な職能や専門性を踏まえ、運営体制が整備されている。あるいは専門人材の確保や育成に努めている。	音楽大学卒業生やアートマネジメント専攻卒業生などの起用を積極的に行っている	マネージメントコース2人受入れ	大学アートマネジメントコースの学生2人の受け入れ	インターンとして2人の学生を受け入れ地域文化ボランティア交流プログラムとして仕組みを確立している。		
(ク)	(職制の整理) 芸術監督、館長、支配人、プロデューサー、その他管理職の職位及び職能、一般職員の職務内容等が専門性を基に整理され、役割分担されている。	館長、企画制作職員、総務職員による職務内容の分担がある	ステラシアタープロデューサー1人、館長1人、制作スタッフ2人	ステラシアタープロデューサー1人、館長1人、制作スタッフ2人	町直営施設ではあるが、中期長期目標が確立しており、制作能力を発揮できる機能がある。		
(ケ)	(世代間バランス) 年齢バランスを考慮した人材確保を行っている(若年層の雇用に努めている)。	若年層の雇用に努め、全体にバランスが取れた世代間となっている	30代以下職員: 3人以上	30代以下職員: 3人	従業員8人のうち3名は20代、30代であり、幅広い年代が携わっている		
(コ)	(ジェンダーバランス) 女性管理職比率が30%以上である。あるいは、女性の管理職やリーダー職への登用に努めている。	女性管理職はないが、半数が女性職員で様々なことへ取り組んでいる	女性企画制作リーダー1人	女性企画制作リーダー1人	現場管理の女性比率が高く、劇場運営の根幹は女性の体制に重きを置いている。		
(サ)	(ワークライフ・バランス) 仕事と育児・介護等の両立支援制度を整備し、推進している。	必要な職員がいるときは、活用している	産休職員1人	産休職員1人	家庭と職場のバランスがより取りやすい職場にしていくために推進することが必要		
(シ)	(コンプライアンス順守) 情報セキュリティをはじめ、各種コンプライアンスの順守規定を策定し、必要な研修を行っている。	様々な規定を設定し、順守を心掛けている。	町全体研修に参加する	町全体研修1回	互いに確認して情報セキュリティを遵守している		
(ス)	(ハラスメント防止対策) 職場内及び創作現場におけるパワー・ハラスメント、セクシュアル・ハラスメント等防止のための指針等を策定・周知し、必要な研修を行っている。	カスタマーハラスメント講習への参加	町全体の研修に参加する	町全体研修1回	パワハラ、セクハラが無いように職場の人間関係の構築ができているカスハラへの取り組みも必要な対応は構築。		
(セ)	(適正な契約事務) アーティストやスタッフと適正な契約書を交わしている。	事業実施前に、音楽事務所等と必ず契約書を取り交わしている	音楽祭開催に伴う契約書締結	音楽祭開催に伴う契約書締結	今後も継続していく必要がある		

4. 総評

・ 団体の自己評価

河口湖ステラシアターは平成7年5月開設以来、住民の参画をホール運営の根幹に据え、各コンサートを住民が鑑賞するだけでなく、来場者をもてなす側にも住民が立つ仕組みを作り運営している。一方で、観光地におけるホールの有り方を実践する場所であり、文化が経済をリードするまちづくりの中心施設でもあったことから、地元主要産業である観光に対して、文化芸術をマッチさせた事業展開を行う中心施設としてホールを活用し、町の生産性向上をけん引する施設としても位置づけている。平成10年5月にオープン以来参画してきた文化ボランティアを中心メンバーと一緒に発展的に組織化していく中で、ステラシアターサポーターズクラブに名称も新しくして、ホール運営を主体とした文化ボランティア組織としてホールを支え、現在に至っている。

河口湖ステラシアターを拠点として「音楽のまち富士河口湖」を目指し、音楽祭等のホールが中心となって行う音楽プログラムが、地域全体に広範囲に行われることにより、改めて音楽を身近に感じる機会となり、地域全体の芸術文化活動の更なる活性化、将来の人材育成や地域産業の生産性の向上につながると思われる。また、良質な演奏会を住民が鑑賞する機会を作ることで、今後も住民の心豊かな環境に貢献することができ、事業を発案するところから住民の関りを作ることはホールを支えていく心の醸成に繋げる。各演奏会を通じて、ホールが住民交流の拠点となる環境を更に強化させながら、演奏家による良質な音楽を身近に触れ合う機会を作り、町中たくさんの場所で音楽を平等に楽しめる環境を作ることが私たちの役目ではないかと思う。

こうした地域住民が支えるホールとして、持続可能で地域に支えられるホールを目指して、各種事業を実施している。併せて、富士山河口湖音楽祭を拠点事業として、地域として深く住民とも向き合う機会となっており、文化度が益々深まっているように感じることができる。

また、富士山河口湖音楽祭はオリジナルプログラムとして、海外演奏家と直接かかわりながらホール企画制作による事業ができることを最大限に活かし、住民ボランティア、学校各先生とも連携しながら、子供たちに生の本物に触れる機会を作っている。世界で活躍する演奏家による演奏を身近に感じる機会となり、本物に触れる機会を養う機会になっている。併せて、演奏家との交流から外国語にも触れる機会にもなっており、将来のホール運営にもつながる機会になる重要なプログラムとしている。

毎年この普及活動の一つにある、子どものための音楽プロジェクトでは演奏家との共演を一つのプログラムとしている。この共演に向け、子どもたちは本番までに、合奏の成功を想像しながら日々練習を重ねている。本番では、演奏家が音楽で子どもたちを先導し、曲が完成していく様子は鳥肌が立つような感動的な瞬間である。一生懸命なその演奏は、その場でしか味わえない忘れられない経験となり、元気づけられ明日への活力となることだと実感している。併せて、この機会を通じて、子供たちにとって音楽を身近に感じる環境を作っていく。ただ、町内の学校すべての会場で演奏会を実施することは難しく、音楽に触れる機会が得られない学校もある。平等に機会を共有する観点から、円形ホールでの演奏会を学校観劇教室の一環としても位置付け、児童生徒を招待している。より多くの地元住民である皆さんに音楽を純粋に楽しんでもらう目的と、もう一つに、子どもと同じ空間・同じ音楽を聴くことで、自宅での共通の話題の一つになることをねらいとしている。一つのことを皆で楽しみ、話をする時間が必要であり、そこから生まれる温かい会話で、小さなことではあるが、殺伐とした日々から少しでも心が救われ、活力になっている。

・ PDPOの所見

